

## [概要]

近年、小学生児童を狙った凶悪犯罪が大きく報道されている。警視庁は通学路等における子供の安全確保のための対策の推進についての通達を各都道府県警察に出すなど、通学路上で起こった事件が特に問題視されている。全国的に防犯の意識が高まる中で、防犯対策を検討する際に GPS を活用した取り組みが行われている。本研究ではセンサーネットワーク網が整備された富山市内の地 3 つの小学校(四方小学校, 池多小学校, 新庄北小学校)を対象に, 位置情報のデータを利用して通学路の利用のされ方を明らかにし, 安全安心な登下校空間について議論する。位置情報データをもとに分析を行った結果, 3 校とも登校と下校で異なる様態であることがわかり, 下校空間の方が多様となっていることが分かった。また, 密度推定の結果児童数の多い 2 校では似通った傾向を示し, 児童数の少ない 1 校は異なる傾向を示した。その傾向は登校では高密度の地域が線状に表れ, 下校が点状に表れるというものであった。また, 時間帯別に点データを整理した結果, 四方小学校・新庄北小学校では点データが最も多いのが 15 時台, 池多小学校が 16 時台となった。以上のデータから児童が単独で行動しているとみられる場所や時間帯が把握できたため, 効果的な見守り活動等の防犯対策の検討ができた。

キーワード：小学生, 登下校, 安全安心, GPS 端末